

2012.05.12・13 雲取山山行報告書

担当：M1 今村

①参加者(敬称略) M2 荒川 M1 今村・田中

②行程



5/12(土)奥多摩駅 09:30～(バス)～10:05 鴨沢 10:10～小袖乗越 10:40～12:55 七ツ石小屋～
 13:15 七ツ石山 13:30～奥多摩小屋 14:30～15:30 雲取山山頂 16:20～雲取山荘 16:40
 5/13(日)雲取山荘 04:05～04:30 雲取山山頂 04:55～05:15 雲取山荘(テント撤収)06:15～
 07:10 芋の木ドッケ 07:20～09:05 長沢山 09:15～水松山付近 10:05～11:10 天祖山 11:50～
 八丁橋 14:00～東日原バス停 14:45

③山行報告《1日目》

奥多摩から満員のバス(非常に混雑していました)に乗って奥多摩湖を横に見つつ10時過ぎに鴨沢に到着。登山を開始しました。下の写真は小袖乗越までの道の様子です。



(1027 撮影)

写真でも分かるように、非常によく踏まれた、歩きやすい道であり、登山ではなくピクニックという感じがするほどでした。このような道を30分弱あるくと小袖乗越に到着しました。ここからも大差ない緩やかな歩きやすい道を歩いていきます。



(1055)

そして午後 1 時前にはセツ石小屋に到着しました。



(1258)

この写真からも少しわかるように人は大変多かったです。ここからセツ石山山頂までは程無くして着きました。



(1314)

七ッ石山から奥多摩小屋までは視界の開けたところを、景色などをみつつのんびりと(小さなアップダウンはあったものの、)歩くことができました。ここでも登山者は大変多く、道は非常に歩きやすい道でした。



(1339)

このような中を歩き、それなりの傾斜なども上り下りして、(人が多く道は大変よく整備されていました)午後4時過ぎについに、雲取山山頂に到着しました。



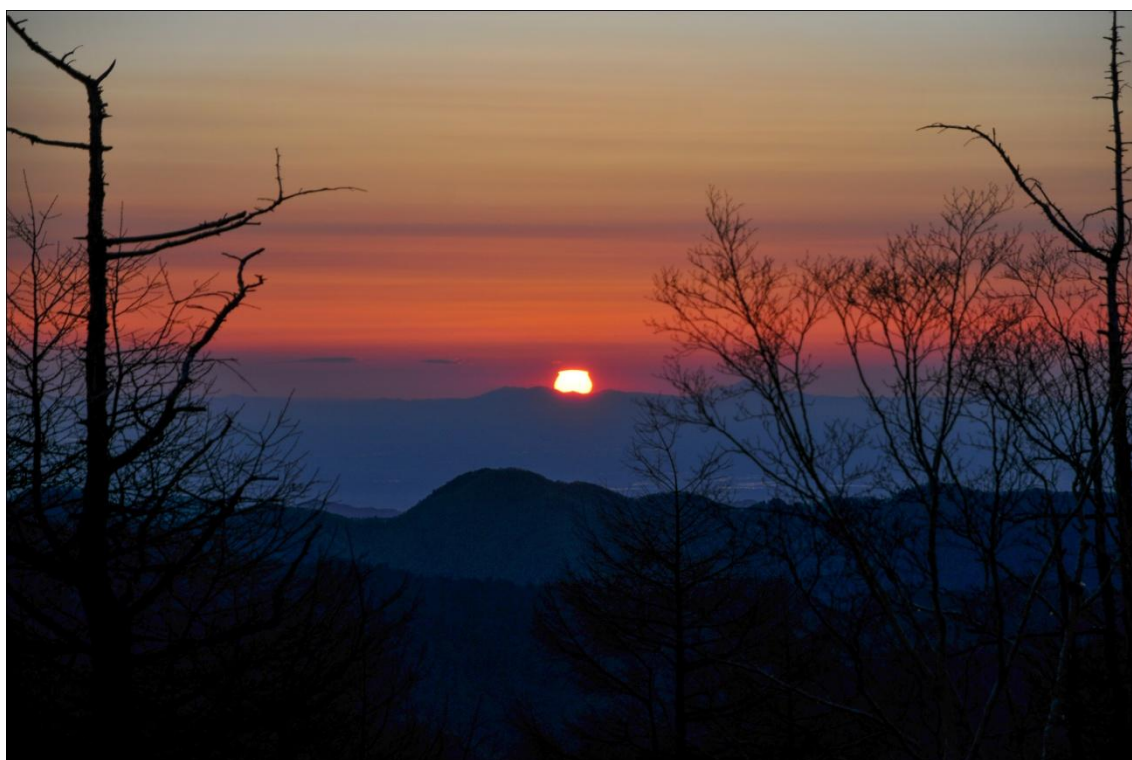
(1616)

この日はこの後、テント泊を行う雲取山荘付近まで向かい、テント設営、食事などをし、翌日のこと(日の出を見に雲取山山頂に行くなど)を決め、早めに就寝しました。

1 日目はどこの道も大変よく整備されており、非常に気楽に歩ける道でした。

④山行報告《2 日目》

この日は4時30分ごろのご来光を拝むため、3時過ぎに起きてから食事をし、4時前にテントを出発、雲取山山頂に向かいました（雲取山荘から雲取山山頂まで30分ほど）。この時刻の山頂は寒かったです。



(0434)

また、この日の前日は曇っていたため、富士山が良く見えていなかったのですがこの日は晴れたため(日中は雲ひとつない快晴でした)富士山もよく見えました。(次頁写真)

山頂で30分ほど写真を撮ったり景色を眺めたりしたのち、テント設営地にもどり、テントを片づけ、出発の準備をしました。

2 日目は1 日目と地図上の距離は変わりませんが、1 日目と比較するとアップダウンが激しいため、コースタイムが長めになっているようです。また、途中に確実な水場がないため、山荘で水を補給していくことが必須でした。

次頁下の写真は山荘から30分ほどいった、大ダワの写真です。



(0449)



(0629)

大ダワからは厳し目の上りとなり、芋ノ木ドッケに向かいます（芋ノ木ドッケは標高 1946m で、雲取山山頂と 70m しか変わりません）。

芋ノ木ドッケには 40 分ほどで到着しました。



(0709)

芋ノ木ドッケで 10 分ほど休憩してからはヤケトノ頭、桂谷ノ頭、長沢山を通って水松山(あららぎと読みます)に向かいます。

この長沢背陵は、前日のコースと比べると、アップダウンがありますが、よく踏まれて整備されており、危ないところはありませんでした。また、よく踏まれてはいるものの、登山者が少なく、テープを見落とさないようにしないと、道を逸れてしまいそうになるところが少しありました。

長沢背陵には、アズマシャクナゲ自生地があり、見頃の 6 月上旬にくると非常に美しいそうです。

長沢山には 9 時過ぎにつくことができました。長沢山は標高 1738m と、芋ノ木ドッケより 200m 近く低く、アップダウンも大したことはありませんでした。(結局芋ノ木ドッケ前の登りが今回の参考で最も険しい登りでした)

長沢山で 10 分ほど休んで水松山方面に向かいます。今回は水松山のピークにはいかずその手前で、南方向に進路をとりました。(ここまでは東方向に進んでいます)



(0909)



(0934)

水松山付近からは南方向に進んで天祖山（1723.2m）を目指しました。このあたりでも葉の付いていない木が多くそれまで進んできた道を見晴らすことができました。

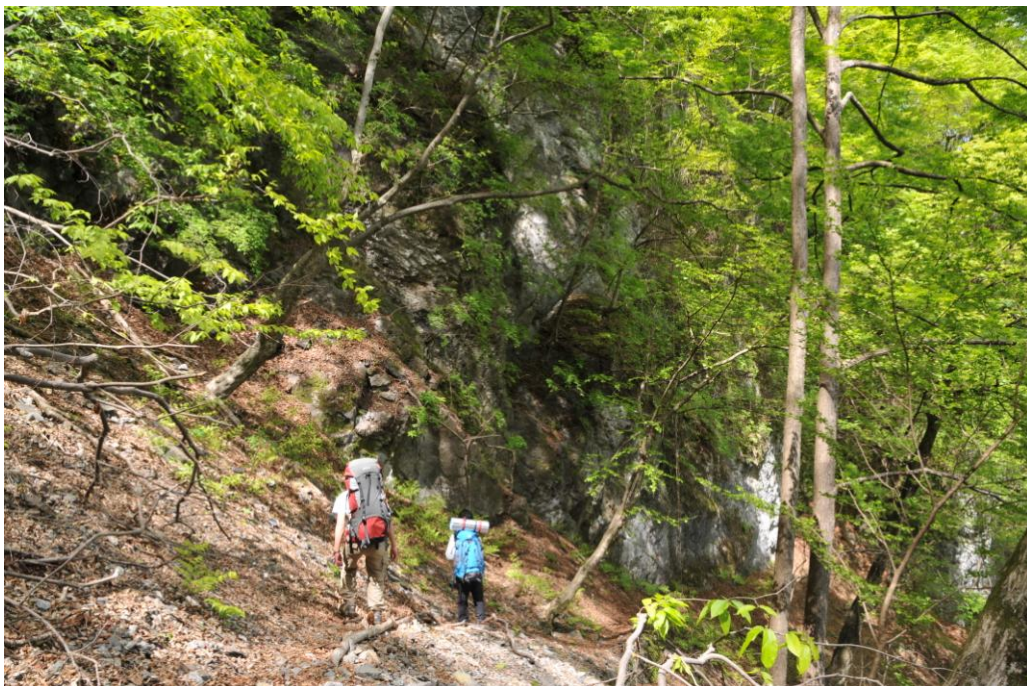
そうこうしているうちに、天祖山に 11 時頃につきました。天祖山手前はテー

プを探しにくく迷いやすかったです。



(1109)上の写真は天祖山頂上にあった建築物です。

さて、天祖山で 1 時間弱休憩し、バスに間に合わせるため、急ぎ目下山し始めました。天祖山からはほとんどすべてが下り道で、登りはほぼありませんでした。天祖山から八丁橋までは急な下りが続きます（地図のコースタイムで登り 165 分、下り 110 分ですが、もっと差がつきそうな気がするほどでした）。



(1345)

この写真は八丁橋直前ですが、天祖山からはおおむねこのような感じの下りを2時間延々と下りました。

八丁橋からは下の写真のような川を脇に見つつ日原に急ぎました（休日はバスが小川谷橋まで運行しないため）。結果、かなりギリギリでしたが(5分弱の余裕)目的のバスに乗ることができました。



(1401)

今回の山行では鎖場やはしごなどは全くありませんでしたし、危険なところもほぼなく、体力的にきついのも、最後の下りと芋ノ木ドッケの手前の登りぐらいでした。しかし、今回の山行ではテント泊の体験をすることができ、(特にテント泊未経験だった今村にとっては)大変貴重な山行となりました。